

女性に関する教育プログラムの開発に関する基礎的研究  
—高校生の性教育の知識とニーズ—

研究者(研究代表者)加城貴美子<sup>1)</sup>

共同研究者 高橋初美<sup>2)</sup>, 小林美代子<sup>2)</sup>, 和田佳子<sup>1)</sup>, 笹野京子<sup>1)</sup>, 阿部正子<sup>1)</sup>,  
高塚麻由<sup>1)</sup>, 西方真弓<sup>1)</sup>, 橋本明浩<sup>1)</sup>, 関川ミサ子<sup>3)</sup>, 高橋由美<sup>3)</sup>, 高館陽子<sup>3)</sup>,  
中島智子<sup>3)</sup>, 村山郁子<sup>4)</sup>, 小川雅子<sup>5)</sup>, 坪井秀和<sup>6)</sup>, 市村雅子<sup>6)</sup>, 中條美奈子<sup>7)</sup>

1) 新潟県立看護大学(母性看護学), 2)新潟県立看護短期大学(助産学), 3)上越市助産師会,  
4)日本助産師会新潟県支部支部長, 5)上越市農業委員・新潟県農村地域生活アドバイザー,  
6)上越市こども福祉課, 7)マミーズネット代表

Basic Research on Developing Education Programs Pertaining to Women  
: The Sex Education Awareness and Needs of High School Students

Kimiko Kashiro<sup>1)</sup>, Hatumi Takahashi<sup>1)</sup>, Miyoko Kobayashi<sup>1)</sup>, Keiko Wada<sup>1)</sup>, Kyouko Sasano<sup>1)</sup>, Masako Abe<sup>1)</sup>,  
Mayu Takatuka<sup>1)</sup>, Mayumi Nishikata<sup>1)</sup>, Akihiro Hashimoto<sup>1)</sup>, Misako Sekikawa<sup>2)</sup>, Yumi Takahashi<sup>2)</sup>,  
Yoko Takadate, <sup>2)</sup>Tomoko, Nakajima<sup>2)</sup>, Ikuko Murayama<sup>3)</sup>, Masako Ogawa<sup>4)</sup>, Hidekazu Tuboi<sup>5)</sup>,  
Masako Ichimura<sup>5)</sup>, Minako Nakajyo<sup>6)</sup>

1) Niigata College of Nursing (Women's Health Nursing), 2) Niigata College of Nursing (Midwifery),  
3) Joetsu City Midwives' Association, 4) Niigata chapter president, Japanese Midwives' Association,  
5) Member of Joetsu City Agricultural Communittee, 6) Children's Welfare Division, Joetsu City,  
7) Representative from Mammy's Net

キーワード: 性教育(sex education), 実態調査 (survey on actual conditions),  
青年期 (adolescence)

## 目的

女性の生涯を通じた健康を考える上で次世代の性に関する健全な育成が重要となる<sup>1)</sup>。そのためには子どもを産む準備の期間となる思春期からその健康と教育が重視される。しかし、現代の社会環境は、マスメディアからの情報、携帯電話、パソコン・インターネットなどの普及による情報化の進展により、思春期の性意識・性行動が開放的かつ活発化している。それに伴い若年妊娠、人工妊娠中絶、性感染症が低年齢化し、社会問題となっている。このような現状を踏まえ、思春期を対象とした性に関する実態調査はおこなわれているが、地方都市と全国調査との比較はされていない<sup>2)</sup>。加えて、このような実態への対応として、性教育が重要な役割を担うと考えるが、学校でおこなわれている性教育の実態についての資料は少ない。

そこで、今回女性の健康に対する教育プログラムを作成する基礎資料とするため、新潟県内の高校生が受けとめている性教育についてのニーズを明らかにし、今後の性教育プログラム開発を目的として調査を行った。第一次調査と第二次調査を実施したが、今回の報告は、第二次調査の「性教育に関する知識とニーズ」の把握に焦点を絞り検討した。

## 研究方法

1.対象: 新潟県内の高校に通う高校生 825 名。 2.内容: 性教育に関する調査(学校・社会レベルでの要因, 家庭環境, 情報入手経路・情報交換の頻度, 異性との付き合い方, 性行動の活発さ・性の日常化, 性的役割分業, 性のダブルスタンダード, 性教育に関するニーズの把握, 性行動や意識に影響を及ぼす因子, 日常における性への関心, 性の商品化という認識の有無, 性成熟度の把握)。 3.方法: 半構成的質問紙による調査。質問紙はプライバシー保護のため、すべて無記名とし、各自で封筒に入れ、厳封後回収した。 4.期間: 平成 15 年 2 月～3 月 5.分析方法: 男子と女子とに分け、百分率の差の検定を行った。なお、統計処理は汎用統計学パッケージ STATISTICA を用いた。 6.倫理的配慮: 学生には、自由参加であること、無記名であることを書面で提示と説明し、同意の得られた高校生に質問紙を配布した。

## 結果

1. 対象: 回答は 825 名でそのうち有効回答は 815 名(98.8%)であった。対象は、男子 281 名(1 年生 144 名 51.2%, 2 年生 137 名 48.8%), 女子 534 名(1 年生 274 名 51.3%, 2 年生 260 名 48.7%) で有効回答率については、有意差はなかった。

2. 性知識について知りたい内容: 男子が女子よりも性について知りたいことで有意差 ( $p < 0.01$ ) があったのは「性器のつくりと働き」、「月経」、「二次性徴、セックス」、「性欲の処理の仕方」と「異性ととの交際の仕方」であった。男性と女性の役割は 5% 水準であった。女子が男子よりも性について知りたいことで有意差 ( $p < 0.01$ ) があったのは、「避妊の方法」と「自分の体について」であった (Table 1)。

3. 性教育受講の有無: 学校での性教育を受けているのは 98.1% で受けていない高校生とでは有意差 ( $p < 0.01$ ) がみられた (Table 2)。今までの性教育が役に立ったか否かの有意差はなかった (Table 3)。

4. 性教育を受けた内容: 性教育を受けた内容で男子と女子が 50% 以上であったのは、「性器のつくりと働き」、「二次性徴」、「生命誕生」と「避妊の方法」であった。次いで、男子と女子が 50% 近くの回答があったのは「月経」、「射精」と「性感染症」であった。性教育を受けた内容では、「月経」で女子が男子よりも多く、有意差 ( $p < 0.01$ ) がみられた。また、「男性と女性の心理や行動の違い」と「男性と女性の役割」は、男子が女子よりも多く、有意差 ( $p < 0.05$ ) がみられた (Table 4)。

5. 性教育が役にたったか否か: 男子が性教育を受けて役にたった内容で有意差 ( $p < 0.01$ ) がみられたのは「月経」、「セックス」と「避妊の方法」であった。5% 水準での有意差は「性感染症」と「エイズ」であった (Table 5)。女子が性教育で役にたった内容は「射精」、「セックス」と「避妊の方法」で有意差 ( $p < 0.01$ ) がみられた。「エイズ」、「男性と女性の心理や行動の違い」と「愛とは何か」は 5% 水準の有意差であった (Table 6)。

## 考察

性教育はほぼ全員の高校生が受けており、高校生の性の認知は広く行き渡っているといえる<sup>2)</sup>。性教育の内容は、性の生理学的な側面を表す領域(生理学的側面)、性行為及びそれに付随する側面を表す領域(性行為付随側面)、性の心理的・関係的側面を表す領域(心理的側面)の三つに分類されている<sup>2)</sup>。性教育について知りたい知識は、生理学的側面が多く、次いで男子は性行為付随側面の「セックス」、女子は「避妊の方法」についてであった。心理的側面では、「男性と女性の心理」や「行動の違い」、「異性ととの交際の仕方」、「愛とは何か」、「性欲の処理の仕方」などであった。性教育を受けて役に立ったか否かでは、性行為付随側面については役に立ったと回答した高校生が多くみられた。青少年の性行動全国調査<sup>2)</sup>では、生理学的側面の性教育内容が中心であったと同様の結果がみられている。心理的側面では、役に立ったと役に立たなかったとも回答者数が少なかった。役に立った性教育内容では、男子は月経、女子では射精についてで、異性についての理解で役に立ったと回答していることは、性教育の効果といえる<sup>2)3)</sup>。性教育は生理的側面と性行為不随側面については教育しやすい内容であるが、心理的側面については性教育でどのような内容でどこまで教育するかが今後の課題である。また、生理学的側面と性行為付随側面でも役に立たなかったと回答した高校生も多いことから、役に立たないのはどういうことなのかを調査して、高校生の役に立つ性教育指導内容にすることが必要である。近年、高校生の性知識・性意識を高めるためのピア・エデュケーションの導入<sup>4)</sup>や、助産師の性教育指導者養成教育<sup>5)</sup>が盛んになりつつある。今後、本調査の結果を踏まえ、女性に関する教育プログラムの開発として性教育プログラム作成に向けて調査・研究を進める予定である。

## 結論

性教育の中で生理学的側面と性行為付随側面では、高校生に役に立つ性教育内容についてのニーズの把握が必要であり、心理的側面については、高校生の価値観や社会的背景も踏まえて、積極的に性教育内容に組み入れていくことが必要であると示唆された。

## 文献

- 1) 力武由美. 思春期のセクシャリティとジェンダーの問題. *Quality Nursing* 2002 ; 8 (10) : 13-22.
- 2) 財団法人 日本性教育協会/編. 「若者の性」白書 第5回 青少年の性行動全国調査報告. 東京: 小学館; 2001.
- 3) 剣 陽子. 北九州近郊地域における高校生の性行動・性意識調査から. *Quality Nursing* 2002 ; 8 (11) : 5-12.
- 4) 大嶺ふじ子, 浜本いそえ, 小渡清江, 他. 高校生の性知識・性意識を高めるためのピア・エデュケーションの研究. *日本看護科学学会誌* 1999 ; 19 (3) : 64-73.
- 5) 鍛冶良実. ニューヨーク大学の性教育指導者養成プログラム. *助産師雑誌* 2001 ; 55 (8) : 666-670.

Table1 性について知りたい知識

	全体 N=815		男子 n= 281		女子 n= 534	
	n	%	n	%	n	%
生理学的側面						
性器のつくりと働き	22	5.3	15	5.3	7	1.3 **
月経	17	3.9	11	3.9	6	1.1 **
射精	22	3.2	9	3.2	13	2.4
二次性徴	16	3.6	10	3.6	6	1.1 **
生命誕生	47	5.0	14	5.0	33	6.2
思春期の心理	66	8.2	23	8.2	43	8.1
自分の体について	94	7.5	21	7.5	73	13.7 *
性行為付随側面						
セックス	148	25.6	72	25.6	76	14.2 **
避妊の方法	122	11.4	32	11.4	90	16.9 *
性感染症	167	19.2	54	19.2	113	21.2
エイズ	136	13.9	39	13.9	91	17.0
心理的側面						
性欲の処理の仕方	71	12.8	36	12.8	35	6.6 **
性に関する相談元	39	5.3	15	5.3	24	4.5
男性と女性の心理や行動の違い	169	21.0	59	21.0	110	20.6
異性との交際の仕方	149	27.0	76	27.0	73	13.7 **
男性と女性の役割	32	5.7	16	5.7	16	3.0 *
愛とは何か	121	15.3	43	15.3	78	14.6
性の人生の意味	47	8.2	23	8.2	24	4.5 †
その他	9	2.5	7	2.5	2	0.4 **
特に知りたいことはない	178	24.6	69	24.6	109	20.4

\*\* p&lt;0.01, \* p&lt;0.05, †p&lt;0.1

Table2 学校での性教育受講の有無

	全体 N=749		男子 n= 259		女子 n= 490	
	n	%	n	%	n	%
ある	735	95.4	247	95.4	488	99.6
ない	14	4.6	12	4.6	2	0.4

\*\* p&lt;0.01

Table3 今までの性教育が役に立ったか否か

	全体 N=731		男子 n= 243		女子 n= 488	
	n	%	n	%	n	%
役に立つと感じた	416	58.4	142	58.4	274	56.1
役に立たないと感じた	315	41.6	101	41.6	214	43.9

Table4 性教育の内容

	全体 N=815		男子 n= 281		女子 n= 534	
	n	%	n	%	n	%
生理学的側面						
性器のつくりと働き	509	61.6	173	61.6	336	62.9
月経	496	49.8	140	49.8	356	66.7 **
射精	396	50.9	143	50.9	253	47.4
二次性徴	467	56.6	159	56.6	308	57.7
生命誕生	506	56.9	160	56.9	346	64.8 †
思春期の心理	306	36.3	102	36.3	204	38.2
性行為付随側面						
セックス	254	28.1	79	28.1	175	32.8
避妊の方法	443	54.4	153	54.4	290	54.3
性感染症	384	48.0	135	48.0	249	46.6
エイズ	541	65.5	184	65.5	357	66.9
心理的側面						
性欲の処理の仕方	42	9.6	27	9.6	15	2.8 **
性に関する相談元	48	9.3	26	9.3	22	4.1 **
異性との交際の仕方	46	7.8	22	7.8	24	4.5 †
男性と女性の心理や行動の違い	48	12.5	51	12.5	97	7.5 *
男性と女性の役割	75	12.5	35	12.5	40	7.5 *
性の人生の意味	44	6.8	19	6.8	25	4.7
愛とは何か	34	5.0	14	5.0	20	3.7
その他	12	3.6	10	3.6	2	0.4 **

\*\* p&lt;0.01, \* p&lt;0.05, †p&lt;0.1

Table5 性教育が役に立ったか否か(男子)

	全体	役に立った		役に立たなかった	
	331	n= 125		n= 206	
	n	n	%	n	%
性器のつくりと働き	509	107	85.6	66	81.5
生理学的側面					
月経	496	92	73.6	48	59.3 **
射精	396	91	72.8	52	64.2 †
二次性徴	467	99	79.2	60	74.1
生命誕生	506	99	79.2	61	75.3
思春期の心理	306	63	50.4	39	48.1
性行為付随側面					
セックス	254	55	44.0	23	28.4 **
避妊の方法	443	101	80.8	52	64.2 **
性感染症	384	87	69.6	48	59.3 *
エイズ	541	115	92.0	68	84.0 *
心理的側面					
性欲の処理の仕方	42	19	15.2	8	9.9 †
性に関する相談元	48	14	11.2	12	14.8
異性との交際の仕方	46	13	10.4	9	11.1
男性と女性の心理や行動の違い	48	32	25.6	19	23.5
男性と女性の役割	75	22	17.6	13	16.0
性の人生の意味	44	12	9.6	7	8.6
愛とは何か	34	6	4.8	8	9.9
その他	12	3	2.4	6	7.4 *

\*\* p&lt;0.01, \* p&lt;0.05, †p&lt;0.1

Table6 性教育が役に立ったか否か(女子)

	全体	役に立った		役に立たなかった	
	N=409	n= 245		n= 164	
	n	n	%	n	%
性器のつくりと働き	334	205	83.7	129	78.7
生理学的側面					
月経	354	214	87.3	140	85.4
射精	251	164	66.9	87	53.0 **
二次性徴	606	489	77.1	117	71.3
生命誕生	344	210	85.7	134	81.7
思春期の心理	202	125	51.0	77	47.0
性行為付随側面					
セックス	174	123	50.2	51	31.1 **
避妊の方法	289	187	76.3	102	62.2 **
性感染症	248	153	64.4	95	57.9
エイズ	355	220	89.7	135	82.3 *
心理的側面					
性欲の処理の仕方	15	9	3.7	6	3.7
性に関する相談元	22	16	6.5	6	3.7
異性との交際の仕方	24	17	6.9	7	4.3
男性と女性の心理や行動の違い	97	68	27.8	29	17.7 *
男性と女性の役割	40	27	11.0	13	7.9
性の人生の意味	25	18	7.3	7	4.3
愛とは何か	20	16	6.5	4	2.4 *
その他	2	0	0.0	2	1.2

\*\* p&lt;0.01, \* p&lt;0.05, †p&lt;0.1